

## レベル区分の目安

レベル	レベル区分の目安	レベルイメージ	(参考) 資格検定制度との おおよその対応関係
レベル 4	●組織の中長期的な方針やビジョンを示し、リーダーシップを発揮しながら組織全体を統括することで、企業目標の達成や顧客満足の実現できる能力水準。	上級管理職（部長等） など	<ul style="list-style-type: none"> <li>警備業務検定 1級程度以上</li> <li>警備員指導教育責任者</li> </ul>
レベル 3	●上位方針を踏まえて担当業務を統括・管理し、部門目標の達成や顧客満足の実現に貢献できる能力水準。	初級管理職（課長等） 責任者 部隊長 など	
レベル 2	●担当業務に関する専門的な知識・技能を有し、メンバーを取りまとめ、部下に対して必要な助言を行い、現場の指揮・監督や突発事態への対応等ができる能力水準。	班長 リーダー など	<ul style="list-style-type: none"> <li>警備業務検定 1級～2級程度</li> </ul>
レベル 1	●担当業務に関する基本的な知識・技能を有し、定型業務を確実に遂行することができる能力水準。	警備員 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格なし</li> </ul>

(注) レベルイメージは役職呼称の例であり、実際の職位名称等は企業によって異なります。

# キャリア形成の例

- 多くの場合、警備業におけるキャリアの出発点は警備現場の仕事である。
- まずは第一線の警備員として経験を積み、やがて現場リーダーを任されるようになる。さらに経験と実績を積んだのち、能力や適性に  
応じて警備責任者や本社・支社等の管理職へと昇進する。
- この間、教育部門に異動したり、営業や総務・経理等の部門にキャリアの軸足を移したりするケースもある。

